

「子どもは社会の宝・ チルドレンファースト」

おざわ まさひと
小澤 雅仁

● J P 労組・政治部長

9月6日、今年上半期（1～6月）に全国の警察が摘発した児童虐待の件数と人数は、ともに前年同期比で62.1%、56.4%増の248件255人といずれも過去最悪となり、このうち12人が死亡し、統計を取り始めた平成12年以降最多となったことが報じられた。報道によると身体的な虐待が175件と最も多く、次いで、性的な虐待が68件、さらに、子育ての怠慢や拒否といった「ネグレクト」が5件で全員3歳児以下だそうだ。また、警察は、通報を受けて虐待の疑いがあれば、事件として扱わない場合でも児童相談所に通告しているが、この半年間に通告した子どもは7,271人と去年より40%近く増えている。親から「産まなければよかった」と暴言を浴びせられたり、父親が母親を殴っているのを目撃したりして心に傷を受ける「心理的虐待」が半数を占めているそうだ。

本当に聞くに堪えがたいことである。愛されるべくして生まれてきた子どもが、親からの虐待にさらされ、幼い命が失われることに強い憤りを覚える。子どもの精神的なショックは計り知れない。このような親を許すことは断じてできないが、親のストレスのはけ口が、子どもを守る対象から攻撃の対象になっている現実を直視しなければならない。児童相談所において、育児の悩みの相談を受け付けているが、身近な人が相談にのってあげることが重要だと思う。しかし、都市部では隣に誰が住んでいるのかわからない家庭も多く、人間関係の希薄化も要因の一つであろう。

NHKの連続テレビ小説「梅ちゃん先生」でも「子どもは社会の宝。地域みんなで育てることが大事だ」と言った陽造さんの言葉が心に響く。地域に育児などの悩みが気軽に相談でき

る相談員の配置や虐待を防止できる社会システムの構築を政治の場において早急を実現してほしいと願っている。

さて、「政権交代の夏」から3年が経過した。「マニフェストの崩壊だ」と民主党を非難する声が大きいの事実だが、私はあの自公政権によってもたらされたマイナスからやっとプラスマイナスゼロに戻ってきた民主党政権を評価している。政権交代が実現して本当に良かったと思っている。民主党に対する評価は色々あると思うが、予算を大きく組み替え、子ども手当の支給、高校授業料の無償化や保育サービスの定員増加によって、2010年に出生率が2年ぶりに上昇、2011年に男性の育児休業取得率が過去最高の2.63%を記録、4年ぶりとなる待機児童の減少、高校中退者が1.3万人減少するなど、さらなる子育て支援を強化して、格差社会の是正と少子化に歯止めがかかることを強く期待したい。

7月29日～30日に参議院主催による「子ども国会～復興から未来へ～」が150人の子ども国会議員によって開催された。開会式、委員会、本会議など、本番さながらの議事が行われた。そこで採択された「子ども国会宣言」の結びにこう記されている。「一人一人の力は小さくても、みんなで協力して行動を起こせば大きな力となります。私たちは、子ども国会で出会った仲間たちとのきずなを大切にしつつ、日本の未来を希望の光で輝かせたいと願っています」。

子どもたちの希望ある未来を創るのもいまを生きる私たち大人の責任であると自覚したい。「子どもは社会の宝・チルドレンファースト」。この言葉を実行する社会の実現と政策を実現する政治を今後も全力で支援していきたいと思う。